

人を招く笑店街

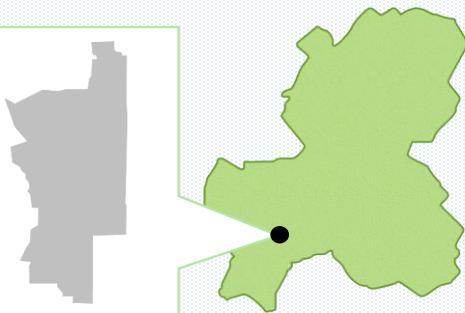
コンセプト

私たちは北方商店街を活性化させるというコンセプトのもと、空き家の活用方法について考えた。北方商店街は私たち岐阜高専生が暮らす地域にある。ただ店が少なく、空き家も多いため、昔のように戻したいという思い付きからこのコンセプトで空き家の活用方法について考えることにした。最終的に地域内と地域外の両方の人との交流、北方商店街の経済を成長させることを目標とした。

北方商店街の概要

岐阜県本巣郡北方町

- ・人口：一万八千人
- ・農業・果樹生産が盛んで、豊富な種類の地産野菜とフルーツがある。
- ・江戸時代には西美濃で第三の商都であった。



(写真) 日曜午後5時の北方商店街の様子

北方商店街

空き店舗の活用舞台となる北方商店街は、岐阜県本巣郡北方町にある東西約一キロに伸びる商店街である。かつて北方町が栄えていたように、北方商店街は昭和の中頃まで岐阜県の中でも屈指のにぎわいであった。しかし、商業の中心が国道沿いへと移行していくなかで、だんだんと衰退の道をたどっていった。今では、左の写真のように、商店街の半数以上の店は閉まり、昼夜間わず人通りは少なくなっている。毎年夏には、歩行者天国が行われ大勢の町民が集まってきて賑わいを見せるが、その時しか人が来ないことが北方商店街の課題だと考えられる。



平日の商店街の様子



休日の商店街の様子

平日はかつて空き店舗であった場所を活用することし、休日は空き家の空間をすべて有効活用するため、2階など内部の空間でもフリーマーケットを行うこととする。各部屋にそれぞれフリーマーケットのお店を設置し、できるだけたくさんの方が参加できるようにする。夏などは空き家の内部で涼むこともできるだろう。フリーマーケットの対価はお金でも物でも売る人の納得するものであれば何でもよいとすることで、売る人と買う人の交渉という人との交流を生み出すことができると考えた。また、何でもよいとすることで、お金を持っていない子供も参加しやすくなり、子供との交流にもつながるのではないだろうか。このように平日と休日の1週間で2度楽しめる北方商店街にすることによって、来る人も増え、北方商店街を活性化させることにつながると考える。

宣伝方法としては、インターネットを使用したり、簡易的なパンフレットを作ったりすることで人が集まりやすくなると考える。

北方町へ生み出す効果

フリマに訪れた地域の人同士の交流が活発になる。

毎週土曜日が楽しみになる。

参加した人から情報が伝わり、北方町→本巣→岐阜→全国へと広がっていく。

フリーマーケットに来た人が近くにあるお店にも訪れる。

人が集まるにつれ、北方商店街に出店する店が増える。

北方商店街がたくさんの人で賑わい交流の生まれる場所へと活性化！！
北方町全体が盛り上がり、若者離れを防ぎ、人口が増える。

空き家の活用方法の詳細

いつ	平日	休日
場所	全ての空き店舗	全ての空き家
誰	農家	誰でも
商品	野菜や特産品である柿	各自売りたいもの
商品に対する対価	お金	何でも良い